様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ２８ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｈ０１４０７

研究課題名（和文）歴史研究の観点から見た現代アフリカの紛争

研究課題名（英文）Conflict in Contemporary Africa from Historical Perspective

研究代表者
佐川　徹（Sagawa, Toru）

慶應義塾大学・文学部（三田）・准教授

研究者番号：７０６１３５７９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は現代アフリカで発生してきた紛争の歴史的背景や紛争後の歴史意識を解明した。歴史はそれを語る主体の属性に応じて多様な解釈がなされる。そのため、武力衝突が治まったとしても、紛争をめぐる記憶は人びとのその後のくらしに深刻な影響を与える。とくに、内戦は日常生活の単位となるコミュニティ内部の人間関係に亀裂をもたらすため、内戦後にはその亀裂を修復する必要が生じる。さらに、遠い過去の内戦の記憶が、今日の集団間関係や国家と民族の関係に大きな影響を与えることもある。本研究では東アフリカ、西アフリカ、南部アフリカを事例として、この歴史と紛争の動態的なかかわりを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
日本社会において、アフリカの紛争はある種の「語りにくさ」をはらんでいる。アフリカという語は「無秩序」や「未開性」といったイメージを喚起するため、アフリカにおける暴力の悲惨さだけを語ることは、この偏向したアフリカ像を再生産してしまうおそれがある。また、アフリカにおける紛争の多くは国家間戦争ではなく内戦であったため、その全体像を知ることが難しい。本研究では、これらの「語りにくさ」をのりこえるために、各紛争を適切な歴史的、政治経済的、社会文化的コンテキストに即して論じるとともに、紛争や暴力に対してアフリカの人びとが能動的に対処してきたことを明らかにすることにも力を注いだ。

研究成果の概要（英文）：This study elucidates the historical context of conflicts and the historical consciousness of the post-conflict period in contemporary Africa. History is interpreted in diverse ways depending on the attributes of the actors who narrate it. Therefore, even when armed conflict has subsided, memories of the conflict have a serious impact on people's subsequent lives. In particular, civil wars cause fissures in the relationships within the communities that form the unit of daily life, which need to be repaired after the war. Furthermore, memories of civil wars in the distant past can have a significant impact on inter-group relations and state-ethnic relations today. This study uses East Africa, West Africa and Southern Africa as case studies to illustrate this dynamic relationship between history and conflict.

研究分野：地域研究、文化人類学

キーワード：紛争　平和　和解　民族間関係　国家

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

21 世紀に入り、アフリカ大陸では大規模な内戦の多くが終結した。だが、内戦後の社会は和解や国民統合をめぐり現在でも多くの課題を抱えている。また、2000 年代以降、紛争を直接の原因とした死者数は減少したが、それはアフリカの紛争が沈静化したことを意味しない。今日でも農地や放牧地などの自然資源をめぐる集団間の小規模な争いや、選挙の前後に発生する党派間の戦闘、反政府運動勢力による「テロリズム」とも呼ばれる既存の体制への対抗暴力が、アフリカのいくつかの地域で発生している。さらに、直接的な武力衝突が発生していなくても、過去の紛争に起因する集団間の対立や排他的な主張が社会秩序を不安定化している地域も多い。紛争の実態と原因については、政治学や国際関係論を中心に人類学でも研究がなされてきた。これらの研究の多くは植民地以降の歴史についても言及するが、紛争の前段階として過去を参照するという目的論的視点に立つため、紛争が生じた歴史的背景や社会的要因を十分に考慮に入れているとはいえない。

２．研究の目的

本研究は、現在紛争が生じている、あるいは過去に紛争が生じた複数の地域の歴史を植民地期およびそれ以前にまでさかのぼって、そこにいかなる経済システムや社会構造があり、どのような紛争抑止の仕組みや社会的安定の可能性があったか、にもかかわらずその後の経緯の中でどのような原因により紛争や内戦が生じ、現在の事態に陥っているかを明らかにする。それに際して、民族間関係・人の移動・マイノリティ集団の位置づけ・歴史意識のあり方の４点に着目しながら、複数の事例の比較分析を行い、紛争発生にいたるパターンを歴史的に記述し、解明することをめざす。また、過去の紛争や現在進行中の紛争が発生した歴史的経緯に着目することはもちろんだが、かつての紛争やその記憶が、現代を生きる人びとの社会関係や集合意識にどのような影響を与えているのかにも関心を払う。

３．研究の方法

本研究は、研究代表者と分担者の合計 5 名が、それぞれの対象地域が紛争や現在の混乱した状況に至った経過を、植民地化以前にまでさかのぼりながら、長期的なパースペクティブによって明らかにしようとするものである。各研究者はこれまで対象国で調査研究を行っており、各自が蓄積したデータを持っている。それらデータに対し、本研究を通して歴史的なデータを加えていくことで、各国の紛争発生にいたる過程を分析し記述する。特に以下の 4 つの視点を問題意識として共有し、比較分析を進める。

第一に民族間関係への関心である。近年の人類学では、アフリカは古くから人口移動が活発であり、民族の境界は流動的で、諸個人はそれぞれの民族に決定的に帰属するものではなかったとの見解が有力である。これに対し、西アフリカにおけるトゥアレグ人と農耕民の対立などのように、生業形態や過去の政治組織の違い、遠距離交易、イスラーム世界やキリスト教世界との接触などの要因により、民族境界が比較的明瞭に形成されているケースもある。そのため、どのような実践を通じて民族境界が作りだされ、紛争の資源として活用されているかを、植民地期以前の生態環境の利用や生業形態、人間の移動等も参照しながら明らかにしていく。

第二の視点は人の移動である。植民地期以降の社会経済的な再編過程において、石油産業のあるナイジェリア南部や、ジンバブエへの白人の入植、エチオピア南部の牧畜地域への農耕民の移動など、大規模な人口移動が生じ、混乱を招いたケースがしばしばある。本研究においては、こうした移動によってどのような社会経済的変化が生じ、またそれがいかなる過程を経て排他的なアイデンティティ意識の形成につながったかを明らかにする。

第三の視点はマイノリティ集団の位置づけである。あらゆる政治組織は、人口的少数派や政治的劣位集団としてのマイノリティを生み出さずにはいない。このとき、マイノリティ集団の主張を政治に反映する仕組みが存在しない限り、ナイジェリアにおけるイボ人の独立運動等のように紛争を生じさせやすくなる。こうした観点から、各国でマイノリティ集団の声 を反映させる仕組みがどのように機能しているか（いないか）を明らかにする。

第四の視点は歴史認識と紛争との関係である。独立以降、各国国民や各集団は歴史意識の形成に力を入れ、それを自分たちのアイデンティティの確立に活用してきた。ヌエル人のように過去の予言者の存在が民族アイデンティティの形成に多大な影響をもたらした事例もある。それは時に偏狭化した自己意識を生み出し、他者への排他性をもたらしているケースがある。本研究では、歴史意識が海外の集団の支援も受けながらどのように形作られ、それがどのように人びとの動きに影響してきたかを明らかにする。

４．研究成果

本研究は現代アフリカで発生してきた紛争の歴史的背景や紛争後の歴史意識を解明した。本研究プロジェクトがスタートした2020年度から申請時の終了予定年度であった2022年度まで、世界はコロナ禍の真っ只中にあった。そのため、当初予定していたアフリカ諸地域でのフィールドワークの実施が困難になった。そのため、科研のメンバーや本科研のテーマに関心を有する研究者に参加してもらい、オンライン上での研究会を重ねた。各研究者は、過去の調査で得てきたフィールドデータや既存の文献や史料に依拠して、アフリカ各地の紛争と歴史の関係の理解につとめた。

歴史はそれを語る主体の属性に応じて多様な解釈がなされる。そのため、武力衝突が収束したとしても、紛争をめぐる記憶は人びとのその後のくらしに深刻な影響を与える。とくに、内戦は日常生活の単位となるコミュニティ内部の人間関係に亀裂をもたらすため、内戦後にはその亀裂を修復する必要が生じる。さらに、遠い過去の植民地支配や内戦の記憶が、今日の集団間関係や国家と民族の関係に大きな影響を与えることもある。本研究では東アフリカの南スーダンやウガンダ、エチオピア、西アフリカのマリやナイジェリア、また南アフリカなどを事例として、この歴史と紛争の動態的なかかわりを分析し、それに焦点をあてた著作を出版した。

たとえば、2010年代以降続くマリ北部紛争ではフランスの軍事介入が失敗に終わった。この背景を理解するためには、旧宗主国であるフランスの統治政策や独立後のネオコロニアリズム的態度、少数民族トゥアレグ人の自治・独立闘争を適切にコンテキスト化する必要性が示された。ナイジェリアに関しては、1960年代に発生したビアフラ戦争で「敗者」となったイボ人の歴史認識が明らかになった。悲惨な戦争を経験したイボ人たちは、今日、自らを旧約聖書に描かれたユダヤの民の末裔とする起源神話が広まっている。この起源神話は、イボ人たちのあいだで、植民地支配から内戦における敗北を過去にユダヤ人たちが経験したような一つの運命と定めることで、再燃する分離独立運動への参加を促す歴史認識を生み出している。南スーダンにおいては、内戦の主要な当事者となったヌエル人たちの紛争において、在来の「報復」概念が、民族単位で人々を動員するための概念へと流用されていく歴史が示された（詳細は、2024年に春風社から出版された『歴史が生みだす紛争、紛争が生みだす歴史―現代アフリカにおける暴力と和解』を参照）。

この著作においては、日本社会において、アフリカの紛争はある種の「語りにくさ」をはらんでいる点にも注意を払った。アフリカという語は「無秩序」や「未開性」といったイメージを喚起するため、アフリカにおける暴力の悲惨さだけを語ることは、この偏向したアフリカ像を再生産してしまうおそれがある。また、アフリカにおける紛争の多くは国家間戦争ではなく内戦であったため、その全体像を知ることが難しい。本研究では、これらの「語りにくさ」をのりこえるために、各紛争を適切な歴史的、政治経済的、社会文化的コンテキストに即して論じるとともに、紛争や暴力に対してアフリカの人びとが能動的に対処してきたことを明らかにすることにも力を注いだ。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 橋本栄莉	４．巻 186
２．論文標題 予言者は紛争を終わらせることができるか？―― 南スーダンの旅する予言	５．発行年 2023年
３．雑誌名 季刊民族学	６．最初と最後の頁 80-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11501/7953700	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 早川真悠	４．巻 24
２．論文標題 穏やかな雰囲気：ジンバブエの人びとがいる現場	５．発行年 2023年
３．雑誌名 アフリカ	６．最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐川徹	４．巻 86-2
２．論文標題 なぜ「敵」を助けたのか―倫理的な生と不自由さの感覚	５．発行年 2021年
３．雑誌名 文化人類学	６．最初と最後の頁 269-286
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.86.2_269	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Sagawa Toru	４．巻 25-2
２．論文標題 Dynamics of Cultural Value on Non-Pastoral Activities among the Daasanach in East Africa	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Nomadic Peoples	６．最初と最後の頁 206-225
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3197/np.2021.250203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 橋本栄莉	4．巻 82-1
2．論文標題 アフリカの若者の身体	5．発行年 2022年
3．雑誌名 史苑	6．最初と最後の頁 63-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14992/00021471	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 橋本栄莉	4．巻 82-1
2．論文標題 「本物の男」と「複写男」のあいだで ： 南スーダン紛争後社会における癒痕とハイブリッドな「男らしさ」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 史苑	6．最初と最後の頁 79-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14992/00021472	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松本尚之	4．巻 176
2．論文標題 遠い日本から民族独立を願うー日本に暮らすイボ人たちとビアフラ戦争	5．発行年 2021年
3．雑誌名 季刊民族学	6．最初と最後の頁 18-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 橋本栄莉	4．巻 81-1
2．論文標題 奇声が紡ぐ歴史、あるいは「狂人」が照らす真実	5．発行年 2020年
3．雑誌名 史苑	6．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14992/00020420	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　2件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 佐川徹
2．発表標題 現代アフリカの紛争―なぜ「ふつうの人」が加害者となるのか？
3．学会等名 慶應通信マルチメディア慶友会講演会
4．発表年 2023年

1．発表者名 佐川徹
2．発表標題 拒否された血償―ダサネッチにおける復讐／感染／代替の論理
3．学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4．発表年 2021年

1．発表者名 佐川徹
2．発表標題 現代世界におけるフロンティア空間の動態
3．学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
4．発表年 2021年

1．発表者名 佐川徹
2．発表標題 生業多様化とレジリエンス―東アフリカ牧畜民が漁労をはじめた論理
3．学会等名 国際開発学会第32回全国大会
4．発表年 2021年

１．発表者名 佐川徹
２．発表標題 「暴力の貸しを取り返す―東アフリカ牧畜社会における復讐／感染／代替の論理
３．学会等名 日本文化人類学会公開シンポジウム『人類学からみる現代世界の信用と負債―「人間の経済」に向けて』（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 橋本栄莉
２．発表標題 南スーダン紛争後社会における混成的秩序：国内避難民および難民コミュニティの事例から
３．学会等名 立教大学史学会学術大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 橋本栄莉
２．発表標題 紛争と起源神話：西ナイル系諸集団における神性と経験の歴史
３．学会等名 2021年度第2回科研費「歴史研究の観点から見た現代アフリカの紛争」研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 佐川徹
２．発表標題 血償をめぐる政府と牧畜民の葛藤：ダサネッチにおける復讐／感染／代替の論理
３．学会等名 科研基盤研究B「歴史研究の観点から見た現代アフリカの紛争」2020年度第1回研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐川徹
２．発表標題 東アフリカ牧畜社会におけるコロナ対策の社会経済的影響
３．学会等名 『アフターコロナ時代のアフリカ：今、日本にできること』（主催：グローバル・フォーラム）
４．発表年 2020年

１．発表者名 橋本栄莉
２．発表標題 「本物の男」と「複写男」のあいだで ：南スーダンの紛争、瘢痕とハイブリッドな「男らしさ」
３．学会等名 立教大学史学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 早川真悠
２．発表標題 ハイパー・インフレ下のジンバブエにおける貨幣と時間
３．学会等名 サントリー文化財団「信用の人類史」研究会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 松本尚之
２．発表標題 移動と紛争：ビアフラ戦争の事例を通して
３．学会等名 科研基盤研究B「歴史研究の観点から見た現代アフリカの紛争」2020年度第1回研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 竹沢尚一郎
２．発表標題 トゥアレグ問題を歴史化する
３．学会等名 科研基盤研究B「歴史研究の観点から見た現代アフリカの紛争」2020年度第2回研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 早川真悠
２．発表標題 ジンバブエ「危機」にかんする歴史的考察
３．学会等名 科研基盤研究B「歴史研究の観点から見た現代アフリカの紛争」2020年度第2回研究会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計16件

１．著者名 佐川徹・竹沢尚一郎・松本尚之（編）	４．発行年 2024年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 290
３．書名 歴史が生みだす紛争、紛争が生みだす歴史―現代アフリカにおける暴力と和解	

１．著者名 Shinya Konaka, Greta Semplici and Peter D. Little (eds.) Toru Sagawa	４．発行年 2023年
２．出版社 Kyoto University Press/ Trans Pacific Press	５．総ページ数 383
３．書名 Reconsidering Resilience in African Pastoralism: Toward a Relational and Contextual Approach	

1．著者名 佐久間寛（編）佐川徹	4．発行年 2023年
2．出版社 以文社	5．総ページ数 396
3．書名 負債と信用の人類学―人間経済の現在	

1．著者名 佐川徹・竹沢尚一郎・松本尚之（編）橋本栄莉	4．発行年 2024年
2．出版社 春風社	5．総ページ数 290
3．書名 歴史が生みだす紛争、紛争が生みだす歴史―現代アフリカにおける暴力と和解　いびつなレプリカとしての「報復」―南スーダン、ヌエル社会における紛争と殺人をめぐる概念の歴史的変遷	

1．著者名 佐川徹・竹沢尚一郎・松本尚之（編）竹沢尚一郎	4．発行年 2024年
2．出版社 春風社	5．総ページ数 290
3．書名 歴史が生みだす紛争、紛争が生みだす歴史―現代アフリカにおける暴力と和解　フランスの「かくも惨めな失敗」―マリにおける紛争と混乱の歴史的背景	

1．著者名 佐川徹・竹沢尚一郎・松本尚之（編）松本尚之	4．発行年 2024年
2．出版社 春風社	5．総ページ数 290
3．書名 歴史が生みだす紛争、紛争が生みだす歴史―現代アフリカにおける暴力と和解　ビアフラ戦争とハム仮説―イボ人たちの「さまよえるユダヤ人」としての運命	

1．著者名 蘭信三・石原俊・一ノ瀬俊也・佐藤文香・西村明・野上元・福間良明・佐川徹ほか	4．発行年 2021年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 236
3．書名 「戦争と社会」という問い	

1．著者名 松村圭一郎・コクヨ野外学習センター・佐川徹ほか	4．発行年 2021年
2．出版社 黒鳥社	5．総ページ数 302
3．書名 働くことの人類学	

1．著者名 児玉谷史朗，佐藤章，嶋田晴行・橋本栄莉ほか	4．発行年 2021年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 284
3．書名 地域研究へのアプローチ：グローバル・サウスから読み解く世界情勢	

1．著者名 Christine Mbabazi Mpyangu, Wakana Shiino, Eri Hashimoto and others	4．発行年 2021年
2．出版社 Langaa RPCID	5．総ページ数 364
3．書名 CONTEMPORARY GENDER AND SEXUALITY IN AFRICA	

１．著者名 栗本英世・村橋勲・伊東未来・中川理・早川真悠ほか	４．発行年 2022年
２．出版社 大阪大学出版会	５．総ページ数 312
３．書名 かかわりあいの人類学	

１．著者名 Yuichi Sasaoka, Aim Raoul, Sumo Tayo, Sayoko Uesu, Hisashi Matsumoto and others	４．発行年 2022年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 208
３．書名 Perspectives on the State Borders in Globalized Africa	

１．著者名 宮岡真央子・渋谷努・中村八重・兼城糸絵・松本尚之など	４．発行年 2021年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 280
３．書名 日本で学ぶ文化人類学	

１．著者名 Hayakawa Mayu, Takahashi Motoki, Oyama Shuichi and Herinjatovo Ramiarison and others	４．発行年 2021年
２．出版社 Langaa RPCIG	５．総ページ数 430
３．書名 Development and Subsistence in Globalising Africa: Beyond the Dichotomy	

1．著者名 五十嵐誠一、酒井啓子、佐川徹ら	4．発行年 2020年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 254
3．書名 ローカルと世界を結ぶ	

1．著者名 Sagawa Toru, Takahashi Motoki, Oyama Shuichi and Herinjatovo Ramiarison and others	4．発行年 2021年
2．出版社 Langaa RPCIG	5．総ページ数 430
3．書名 Development and Subsistence in Globalising Africa: Beyond the Dichotomy	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	橋本　栄莉 (Hashimoto Eri) (00774770)	立教大学・文学部・准教授 (32686)	
研究分担者	竹沢　尚一郎 (Takezawa Shoichiro) (10183063)	国立民族学博物館・その他部局等・名誉教授 (64401)	
研究分担者	早川　真悠 (Hayakawa Mayu) (20720361)	国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・外来研究員 (64401)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	松本　尚之 (Matsumoto Hisashi) (80361054)	横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・教授 (12701)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関